

研究室だより

(2006年4月～2007年3月)

- 内山加奈枝氏は、4月、講師に就任。
- 佐藤佳子氏は、4月、助手に就任。
- 小塩和人教授は、4月、文学部英文学科長に就任。
- 鳥田法子教授は、4月、日本女子大学生涯教育総合センター所長に就任。
- 藤井洋子教授は、4月、大学院文学研究科英文学専攻主任に就任。
- 松森晶子教授は、4月、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究プロジェクト「音韻に関する通言語的研究」共同研究員に就任。
- 佐藤達郎助教授は、4月から2007年3月31日まで英国ケンブリッジ大学へ海外研修。
- 井出祥子教授は、5月、国際語用論学会 (International Pragmatic Association) 会長に就任。
- 佐藤和哉助教授は、5月3日、「歴史研究から見たイギリス児童文学」を日本イギリス児童文学会東日本支部2006年度春の例会(於東京女子大学)にて講演。
- 小塩和人教授は、5月13日、「婦人平和協会へ向けて 新渡戸夫妻と成瀬仁蔵」を杉森長子・中嶋邦(編)『20世紀における女性の平和運動』(ドメス出版)に執筆。
- 川端康雄教授は、5月20日、日本英文学会全国大会(於中京大学)のシンポジウム第4部門「大戦間」の文化研究のために——共同体、ファシズム、精神分析」において講師を務める。
- 藤井洋子教授は、5月20日、“Categorization of objects and the verbs of ‘break’ in Japanese and English, and the typological implications”を「言語と人間」研究会(於立教大学)にて口頭発表。
- 英語英文学会の講演会が、5月25日、開催された。講師は映像翻訳家の峯間貴子氏。演題は、「実践吹き替え翻訳～アメリカのギャグを訳す～」。
- ソートン不破直子教授は、6月、日本比較文学会全国選出理事に就任。
- ソートン不破直子教授は、6月17日および18日に、日本比較文学会第68回全国大会(於日本女子大学)の実行委員長を務める。
- 松森晶子教授は、6月、音声学会選挙管理委員に就任。
- Douglas Forster 講師は、6月、“A Complete CALL Curriculum for the Wired Language Lab”を JALTCALL 2006 Conference (於札幌学院大学)にて口頭発表。
- Douglas Forster 講師は、6月、“GlobalEnglish” in “Cybersights”を *Essential Teacher*, Vol. 3 (TESOL) に執筆。
- 小塩和人教授は、6月12日、“Where are the Historians? A Historical Analysis of Environmental History”を立命館大学アメリカ研究所セミナーにて口頭発表。
- 鳥田法子教授は、6月22日、財団法人文京アカデミー国際観光委員に就任。

- Daniel Gallimore 講師は、7月17日、VIII World Shakespeare Congress (於 豪国クイーンズランド、Brisbane City Hall) において、セミナー “Brave Old Worlds: Shakespeare Production and Reception in East Asia” の司会を務める。
- 島田法子教授は、7月4日、独立行政法人国際協力機構海外移住資料館学術委員に就任。
- 井出祥子教授は、7月3日から14日まで、国際語用論学会運営事務執務、および、第16回社会言語学シンポジウムに出席のため、ベルギー、アイルランド、ドイツに海外出張。
- 藤井洋子教授は、7月24日から26日まで、The Seoul International Conference on Linguistics 2006での研究発表のため、ソウル大学(韓国ソウル市)に海外出張。
- 藤井洋子教授は、7月26日、“What do you want to state first?: Pragmatic message management in Japanese word order” を Semantics and Pragmatics Workshop 1, The Seoul International Conference on Linguistics 2006 (於 Seoul National University) にて招待口頭発表。同月に同タイトルを *Proceedings of SI-COL (The Seoul International Conference on Linguistics) 2006*. (The Linguistic Society of Korea) に執筆。
- Douglas Forster 講師は、7月28日から8月26日まで、資料収集のため、UCLA (米国ロサンゼルス)に海外出張。
- Ann Slater 助教授は、7月29日から8月23日まで、資料収集のため伊国ローマ、米国ボストンに海外出張。
- ソートン不破直子教授は、8月、「比較文学者、アメリカ文学者、詩人としての福田陸太郎」を日本比較文学会東京支部のシンポジウム「福田陸太郎先生と比較文学」にて、パネリストとして口頭発表。
- Douglas Forster 講師は、8月、“Integrating Four Skills in English Conversation Instruction” を *JALT2005 Conference Proceedings* に執筆。
- 小塩和人教授は、8月6日から27日までリサーチ・グループ参加のため、米国カリフォルニア大学に海外出張。カリフォルニア大学ニューカーク・センターにて Focus Research Group に参加し “Imagined Border, Movement of People and Construction of Nature,” “Cultural Representations and Social Realities of Water,” および “A Historical Relationship between Consumption and Environment” を口頭発表。
- 濱野成生教授は、8月10日、『日本の、次の戦争』(ゴマブックス)を出版。
- 島田法子教授は、8月24日から9月13日まで、科学研究費補助金による海外調査のため、米国ハワイに海外出張。
- 井出祥子教授は、8月26日、「雄弁な説得は美徳か?—要素還元主義からの解放」を第18回社会言語科学会研究大会(於北星学園大学)のワークショップ「解放的語用論の展開にむけて: その基本理念と応用」にて口頭発表。
- 落合るみ子助手は、8月27日、「否定疑問文「～じゃない」の機能——会話の連鎖に注目して——」を社会言語科学会第18回大会(於北星学園大学)にて口頭発表。

表。

- 小塩和人教授は、8月29日、『原典アメリカ史 社会史史料集』（岩波書店）を松本悠子・樋口映美と共同編集協力。
- 川端康雄教授は、8月29日から9月7日まで、科学研究費補助金「ジョン・ラスキンとウィリアム・モリスによるエコクリティシズムへの貢献に関する研究」の調査のため、ロンドン、ケンブリッジに海外出張。
- 川端康雄教授は、9月、“Kenji Ohtsuki and the Tokyo Centenary of the Birth of William Morris”を *The Journal of William Morris Studies* (Vol. XVI, Number 4, Summer 2006) に執筆。
- 落合るみ子助手は、9月、「ソーシャルハッキングにみられる修辭的技巧——説得的コミュニケーションの観点から——」を『英語の言語と文化研究』第8号に執筆。
- Douglas Forster 講師は、9月4日から9月21日まで、資料収集のため、Anglia Ruskin University (連合王国ケンブリッジ)に海外出張。
- 川端康雄教授は、9月10日、「越境する歴史学」研究会第15回例会(於日本女子大学)において、「オーウェル『葉蘭をそよがせよ』(*Keep the Aspidistra Flying*, 1936)を読む」を口頭発表。
- 濱野成生教授は、9月10日、『日朝、もし戦わば』（ゴマブックス）を出版。
- 松森晶子教授は、9月10日から16日まで、科学研究費補助金の調査のため徳島県吉野川市、高知県安芸市、高知市、香美市等に出張。
- 三神和子教授は、9月25日から2007年3月31日までサバティカル。
- Daniel Gallimore 講師は、9月30日、“The Hiddenness of Shoyo”をルネッサンス研究所第26回総会(於上智大学)にて口頭発表。
- 佐藤達郎助教授は、10月、「精読について——『アントニーとクレオパトラ』を例に」を『英語青年』(第152巻第7号)に執筆。
- Daniel Gallimore 講師は、10月、“Strength in Weakness: Accentual Rhythm in Japanese Translations of *A Midsummer Night's Dream*”を *The Shakespearean International Yearbook*, Vol. 6 に執筆。
- 大場昌子助教授は、10月13日、『『ハーツォグ』における語りの問題』を第18回日本ソール・ペロー協会大会(於青山学院大学)にて口頭発表。
- 英語英文学会の講演会が、10月14日、開催された。講師は明海大学教授の小池生夫氏。演題は、「一貫教育としての英語教育のあり方——国際的視野に立って——」。また、大学院生2名による研究発表も行われた。発表者はアメリカ文学から博士課程後期2年、田中美和。発表テーマは、「Sylvia Plath の *The Bell Jar* における McCarthyism の影響」。イギリス文学から博士課程後期3年、鯨井恵美。発表テーマは、「18世紀英文学における東洋——ハーレムはどう描かれたか——」。講演に先立ち、平成18年度フィリップス賞授与式が行われた。フィリップス賞受賞者は、3年次内山泰菜・林美穂子、4年次小林恵理子・外山千恵。
- 佐藤和哉助教授は、10月14日、『『巨人殺し』は正義の味方?——民衆向け出版物の史料論的検討——』をイギリス史研究会第4回(於明治大学)にて口頭発表。

- 小塩和人教授は、10月25日、『豊かさと環境』（ミネルヴァ書房）を秋元英一と共同編集。
- 佐藤和哉助教授は、10月26日、『『レジャーの場』としての水辺——川遊びの文学——』を文学部・文学研究科共催 学術交流研究企画「世界の水——文化的表象と社会的現実——」（於日本女子大学）にて口頭発表。
- 小塩和人教授は、10月27日、『アメリカ・カナダ』（朝倉書店）を岸上伸啓と共同編集。
- 川端康雄教授は、10月28日、日本英文学会関東支部第一回例会（於専修大学神田キャンパス）にて司会を務める。
- 井出祥子教授は、11月、『わきまへの語用論』（大修館書店）を出版。
- Douglas Forster 講師は、11月、“Motivating and Challenging EFL Readers”、および“Oops! Motivating EFL Students with Movie Goofs”を JALT 2006: Community, Identity, Motivation（於北九州国際会議場）にて口頭発表。
- 落合るみ子助手は、11月4日、「ターン開始時に起こる逆接表現の機能——共同作業における言語文化的期待は何か——」を日本英語学会第24回大会学生ワークショップ「プラクティス・アプローチによる日英語ディスコースの対照研究」（於東京大学）にて口頭発表。
- 松森晶子教授は、11月12日、「讃岐式と真鍋式における平進式無核（H0型）音調の記述」を日本語学会2006年度秋季大会（於岡山大学津島キャンパス）にて口頭発表。
- 井出祥子教授は、11月14日、第24回日本英語学会（於東京大学）で、学生ワークショップ「プラクティス・アプローチによる日英語ディスコース対照研究」の司会と総括を務める。
- 落合るみ子助手は、11月18日、「日英語の否定疑問形式に関する一考察——意味の漂白化の観点から——」を「言語と人間」研究会11月例会（於立教大学）にて口頭発表。
- 大学院英文学専攻課程協議会第40回研究発表会が、11月25日、本学にて開催された。文学研究科委員長のソントン不破直子教授より開会のあいさつがなされたあと、英文学専攻主任の藤井洋子教授の司会により、講演会において、Daniel Gallimore 講師が“Shakespeare Translation Studies: Two Japanese Versions of Sonnet 12”を講演。研究発表会においては、本学大学院からは、博士課程前期2年仲吉里都子、博士課程後期1年大芝香織、韓福美が発表。井出祥子教授、新見肇子教授、松森晶子教授がアドバイザーを務める。
- 井出祥子教授は、12月9日、「多言語社会の中の日本語と場の文化」を第9回応用言語学セミナー（於明海大学）にて講演。
- 川端康雄教授は、12月、「英語・英文学・英語学教育を考える（8）——授業で活用するこの映画」を『英語青年』12月号（第152巻第9号）に執筆。
- 新見肇子教授は、12月、『Blake's Dialogic Texts』（慶應義塾大学出版会）を出版。
- Ann Slater 助教授は、12月23日から翌年1月5日まで、資料収集のため米国サンフランシスコに海外出張。

- 小塩和人教授は、1月、「書評 楠井敏朗『アメリカ資本主義とニューディール』(日本経済評論社、2005)」を政治経済学・経済史学会『歴史と経済』第194号に執筆。
- ソートン不破直子教授は、1月、小林富久子著『ジェンダーとエスニシティで読むアメリカ女性作家——周縁から境界へ』の書評を『図書新聞』に執筆。
- Daniel Gallimore 講師は、1月、“Tetsuo Kishi and Graham Bradshaw, *Shakespeare in Japan*”を *Asian Theatre Journal* 24:1 に執筆。
- 川端康雄教授は、2月、共編著『愛と戦いのイギリス文化 1900-50』(慶應義塾大学出版会)を出版。
- Douglas Forster 講師は、2月13日から3月18日まで、資料収集のため、Anglia Ruskin University (連合王国ケンブリッジ)、および、UCLA (米国ロサンゼルス)に海外出張。
- 井出祥子教授は、3月、「多言語社会の中の日本語と場の文化」を『応用言語学研究 No. 8 (明海大学大学院応用言語学研究科)』に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、Robert Hewison (ed.), *There is no Wealth But Life* の書評を『ラスキン文庫たより』第52号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月、研究分担者を務めた科学研究費補助金共同研究「近代工芸運動の総合的国際比較研究」(2004-6年度、代表者・藤田治彦大阪大学大学院教授)の報告書を執筆。
- 鳥田法子教授は、3月、「上代タノの米英留学——大正期における女子高等教育と海外留学の意義——」を『日本女子大学文学部紀要』第56号に執筆。
- ソートン不破直子教授は、3月、「ロマン主義と『作者』」を『英米文学研究』第42号に執筆、および、「マルクス主義と『作者』——マルクス主義文学批評の変遷を辿って——」を『日本女子大学文学部紀要』第56号に執筆。
- 濱野成生教授は、3月、「Academic Learner に与える初期段階の英語教育のあり方: 市販されている児童英語教育テキスト批判に立脚して(研究報告と提言)」を『英米文学研究』第42号に執筆。
- 新見肇子教授は、3月、「感受性からの脱却——シャーロット・スミスの『ピーチ・ヘッド』」を『日本女子大学院文学研究科紀要』第13号に執筆。
- 松森晶子教授は、3月、「讃岐式諸方言における「下降式」形成(保存)の一要因」を『日本女子大学文学部紀要』第56号に執筆。
- 三神和子教授は、3月、「ヴィクトリア朝ペットブームと犬泥棒」を『日本女子大学文学部紀要』第56号に執筆。
- 大場昌子助教授は、3月、「*Ravelstein* を読む」を日本ソール・ペロー協会東京支部例会(於専修大学)にて口頭発表。
- 内山加奈枝講師は、3月、“The Networked Self in Hypertext Fiction”を『英米文学研究』第42号に執筆。
- Douglas Forster 講師は、3月、“A Critical Discourse Analysis of *Back to the Future*: Applications in the EFL Classroom”を『日本女子大学文学部紀要第56号』に執筆。

- 大槻直子助手は、3月、「救済をもたらす悪——Flannery O'Connor 作品における暴力の効果——」を『英米文学研究』第42号に執筆。
- 大場久恵助手は、3月、“The Representation of the Veil in Iranian Contemporary Arts”を『日本女子大学文学部紀要』第56号に執筆。
- 落合るみ子助手は、3月、「ターン開始時に起こる日英語「逆接」表現の談話機能——共同作業における言語文化的期待を探る——」を『英語の言語と文化研究』第9号に執筆。
- 落合るみ子助手は、3月、「日英語ディスコースにおける「和合型」と「区別型」の否定疑問——文化的志向性の議論を交えて——」を『日本女子大学文学部紀要』第56号に執筆。
- 佐藤佳子助手は、3月、“Nature’s Education in Wordsworth’s *The Prelude*”を『英米文学研究』第42号に執筆。
- 川端康雄教授は、3月4日、国際フォーラム「工芸運動と芸術の近代」（於大阪国際会議場）「グランキューブ大阪」に於いてシンポジウム「工芸運動と近代」の講師を務める。
- 井出祥子教授は、3月16日から23日まで、The Wenner-Gren Foundation Symposium 137 on ‘Ritual Communication’（於 Sintra, Portugal）に参加、“The use of honorifics and ritual communication in Japanese”を発表。
- 川端康雄教授は3月17日、「ラスキン、モリスとエコロジー」を第3回「環境と文学」フォーラム（於大阪大学）にて講演。
- 松森晶子教授は、3月22日から31日まで、科学研究費補助金による調査のため、香川県観音寺市、伊吹島等に出張。
- 井出祥子教授は、3月27日から30日まで、International Workshop on Emancipatory Pragmatics（於日本女子大学新泉山館）に参加、“What we are doing with conversation: A cross-linguistic perspective of language-culture nexus”を共同研究発表。
- 小塩和人教授は、3月30日、「学界動向アメリカ環境史」を日本西洋史学会『西洋史学』第223号に執筆。
- 小塩和人教授は、3月31日、退職。